



なかの
中野
(明和)

けんたろう
健太郎

市 民

【人口減少】これからの市民活動と自治活動

問 共助には互助の概念も含まれているが、住民による地域への所属意識が低下し、地域住民のみによる互助が弱まっている。地域を守っていくためには、従来型の地域コミュニティーでは対応しきれない状況に陥っている。どのような自治活動の将来を想定し、どのような対応が求められていると考えるか。

部長 自治会は市の業務を担っていると言っても過言ではない。人手不足の解消のため、区長会から意見を聴きながら進めていければ。

問 現状の市民活動について、自立的で活発だというが、NPO等市民活動促進事業、市民活動団体育成補助金の対象となった市民団体は地域、自治活動とのつながりはあるのか。

部長 高齢者の交通安全に取り組む市民活動

団体もある。これをもう少し広く、高齢者の見守りなどにつなげられたらいい。そういう団体は十分一緒にやっていけるのでは。

問 企業に出向いて自治活動の意味や参加促進を促す出前講座、市民団体に

は積極的に地域と関わっていくことを呼び掛けるような啓発講座を提案する。

部長 大変良い案。積極的にやっていきたい。

副市長 市民団体とも意見を提案し合う、キャッチボールのできる出前講座になるよう制度構築を考えたい。

市区町村が挙げた自治会の課題	
1	役員・運営の担い手 不足
2	役員の高齢化
3	近所付き合いの希薄化
4	加入率の低下
5	行政からの依頼事項が多い
6	行事(祭り等)の参加者が少ない
7	活動の慣習化
8	新旧住民の交流が団りににくい
9	活動費の不足
10	自治会・町内会会館がない

※内閣府が2016年度に1741市区町村を対象に実施したアンケート調査に基づく。1157市区町村が回答。



いなば こうじ
稻葉 晃司
(超党派虹の会)

産業振興

富士宮まつりについて思うこと

問 山車、屋台の全体的な運航は富士宮まつり実行委員会で把握されているのか。

部長 実行委員会で各区の申請を取りまとめ警察に提出し、山車、屋台の運航は実行委員会でしっかりと把握している。また、警察署とも打ち合わせを行い予告看板、迂回路の確認、山車、屋台の規模に伴う隊列の長さ、交通係の配置場所、山車、屋台の目標地点の通過予定時刻等も把握している。

問 面的な規制をかけることによりもっと効率的に警備ができるのではないかと思った。しかし、それは難しいので、スマホのアプリ等で山車や屋台の動きを市民の皆さんに情報発信することにより視覚的に状況を確認し、混雑を避けて日常生活に支障のない形になれば、市民の皆

さんの富士宮まつりに対する理解も深まるのではないか。

部長 伝統的なお祭りだが、アプリ等の導入というのは入っていないかなという感じはしている。全国的な祭りの視察なども行い最先端のやり方等を研究しているところであり、観光客、市民、祭りの担当者も活用できるようなものをしっかり研究して実行できればと思う。

